

第4次豊明市都市計画マスタープラン策定委員会(第2回)意見への対応

		:策定委員会(第3回)の資料で対応した内容	
		:策定委員会(第4回)以降の資料で記載を検討する内容など	
通番	委員	意見等(要旨)	対応方針・考え方
まちづくりの理念と目標について			
1	松本委員	まちづくりの理念について、「縮充」について、人口減少はやむを得ないとしても、税収減までやむを得ない考えるのはいかなものか。市外へ流出している消費を呼び込む工夫や、環境負荷の少ないAIやソフトウェア開発などの産業誘致を記載してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘いただいた内容を踏まえ、「縮充」の文言を修正しました。(別紙資料) ・「都市計画マスタープラン編 分野別方針」に以下の記載をしました。 <ul style="list-style-type: none"> 「工場や物流施設等と住宅が併存する工業地のうち、工場が主体となっている(都)国道1号東線と(都)瀬戸大府東海線が交差する周辺の工業地では、引き続き、既存の住宅との調和に配慮しながら、工業系主体の土地利用を維持するとともに、環境負荷の少ない先端産業関連の企業立地を誘導するなど、本市の活力を引き出す工業地の形成を図ります。」
2	小田桐委員	目標③の安全・安心について、災害だけでなく、食の安全、食料自給率や治安の視点もあるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画には都市計画に関連する内容を記載しています。食の安全、食料自給率等については、関連する内容を総合計画に記載予定であり、第3回委員会にて総合計画素案の該当部分を提示します。都市計画マスタープランでは直接的な記載はしないものの、関連する事項として、優良農地の保全などを分野別方針に記載しています。 ・目標③に関連して、分野別方針ではインフラや交通安全性について記載しています。治安に関しては、具体的な施策の実施可否について検討させていただき、次回以降の委員会でご報告させていただきます。
3	小田桐委員	目標④について、緑づくりに関連して、花き市場など「花」を活かしたまちづくりを盛り込んではどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市計画マスタープラン編 分野別方針」、「緑の基本計画編 緑づくりの基本方針 主な施策・事業」に以下の記載をしました。 <ul style="list-style-type: none"> 「本市は愛知豊明花き地方卸売市場を有しており、全国から多彩な花や植物が集まることから、公共空間を花で彩り、美しい景観や地域の憩いの場を創出するなど、「花の街とよあけ」を目指します。」 「フラワーボランティアと連携協力しながら公園や駅前広場等の公共空間を花で彩り、美しい景観や地域の憩いの場を創出する取り組みとして、ボランティア活動を支援していきます。」 「花いっぱい運動を通して快適な生活空間を形成するとともに、住民同士のコミュニケーションや地域への愛着心、緑化推進に対する意識を育むことを目的として、引き続き行政区を支援していきます。」
4	天谷委員	2025年の最新の国土交通白書ではDXに重点が置かれているため、本資料の記載内容と齟齬が無いか確認してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年の国土交通白書は、策定委員会の参考資料として記載しており、計画書本編への記載予定はありません。また、まちづくりの理念や目標の設定にあたり、最新の2025年版国土交通白書の内容とも齟齬は無いと考えています。

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
5	天谷委員	目標①について、「徒歩や公共交通」に加え、「自転車」も重要なキーワードである。国の施策でも自転車通行帯の整備が進んでおり、自転車についても明記していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市計画マスタープラン編 分野別方針」に以下の記載をしました。 <p>「歩行者及び自転車利用者の安全性・快適性に配慮が必要な区間等については、歩行空間の整備に加え、自転車が円滑に通行できる走行空間（通行帯・レーン）の確保を検討します。」</p>
6	向口委員長	ウォークラブルなまちづくりにおいて、徒歩と自転車はセットで考えるべきであり、脱炭素の観点からも重要である。自転車道の整備には予算も伴うが、方向性として位置づけることは良いのではないか。	同上
7	酒井委員	自転車だけでなく、電動キックボードなどの新たなモビリティも普及しつつあるため、それらも踏まえた記載の検討が必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい交通システムについて、現時点で市として具体的な取組予定はないものの、そのありかたや導入の検討については、分野別方針等へ記載することになります。ただし、豊明市の公共交通のありかたを示す関連計画である地域公共交通計画が現在改定作業中のため、当該計画の検討状況や内容を踏まえて、第4回以降の委員会で、計画書への反映内容についてご報告させていただきます。
8	村上委員	目標②について、「市民が生き生きと働ける場」という表現について、働き手が交流するだけでなく、市民、在勤者、来街者が交流することで活力が生まれるイメージにするとよい。また、目標①～④が個別に実現されるのではなく、重なり合って相乗効果を生み出すような記載としてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、まちづくりの目標②の表現を以下のように修正しました。 <p>「これまでに整備してきた道路や公園などの都市基盤や桶狭間古戦場伝説地をはじめとする豊明市の多様な地域資源を活かしながら、市民・来訪者が生き生きと過ごし、働ける場があり、様々な価値観を持つ主体の交流によって活力が持続する都市を目指します。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り、目標①～④は相互に作用するものと認識しています。目標①～④の個別の内容は変更しないものの、第5回委員会で提示する事務局で作成中の計画書素案には、ご意見を踏まえ、そうした関係性が分かるような記載にさせていただきます。
9	向口委員長	関係人口も含めて豊かに暮らせるという意味合いかと思う。「豊明市の地域資源」という部分に「多様な」という言葉を加え、歴史的なものから身近な公園まで含まれることを強調してはどうか。	同上
10	城戸委員	目標②について、前後駅を利用している多くの高校生をはじめとした若者が楽しい時間を過ごせる場所があれば、将来の居住選択にもつながる。多世代交流や、外国人比率の高さを踏まえた多文化交流の視点を入れるなど、もう少し踏み込んだ記載があってもよい。	同上
11	小田桐委員	「Well-being（ウェルビーイング）」など、一般的な認知度が低い言葉には注釈をつけるか、分かりやすい言葉を選んだ方がよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘いただいた内容を踏まえ、計画書全般で分かりやすい表現となるよう配慮します。

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
12	原田委員	まちづくりの理念について、「縮充」という言葉に強い違和感がある。これまでも豊明市は公共施設の再編などで縮充に取り組んできたが、これからのまちづくりで、あえて「縮む」という字が入る言葉を掲げる必要があるのか。ネガティブな印象を受ける。	・ご指摘いただいた内容を踏まえ、「縮充」の文言を修正しました。（別紙資料）
13	松本委員	市民が買い物は市外に行っている現状もあり、将来の高齢化の進行状況によっては買い物難民が増えることも考えられる。大型商業施設の誘致が必要とは限らないものの、豊明市内においてワンストップで生活でき、まちの中でお金が循環する状態が理想である。	・現在開催中の地域別ワークショップでの市民意向も踏まえつつ、バランスの取れた施設立地を検討します。
14	向口委員長	商業機能の誘導について、大規模施設だけでなく、若者が魅力に感じるカフェや小規模な店舗などが立地できるような環境づくりも、まちづくりの視点として重要である。	同上
15	中野委員	商業機能の誘導について、地元商店としては、大型商業施設の誘致には慎重な意見もある。緑の保全とのバランスの中で、必要な施設が立地できるよう検討してほしい。	同上
16	原田委員	目標①について、課題から目標を設定する際、子育て世代への言及が多いが、高齢者や障害者も含めた「多世代」にやさしいまちというニュアンスの表現にしていきたい。	・ご意見を踏まえ、まちづくりの目標①の表現を以下のように修正しました。 「生活サービス施設や公園が身近に立地し、徒歩や公共交通で移動しやすい質の高い空間が形成された、 子育て世代をはじめとする多世代の全ての市民 にとって住み続けたいと思えるような、利便性と快適性が両立した都市を目指します。」
17	岡委員	まちづくりの目標①②について、子育て世代にとっては保育園や公共施設が近く快適でありカラットも良い施設だと思う。何もない良さと、何かある良きの両方を活かしたまちづくりを進めていけるとよい。	・ご意見いただいた豊明市の良さを念頭に、計画書作成を進めて参ります。
将来都市構造について			
18	向口委員長	将来都市構造について、「防災・医療ゾーン」と「健康医療福祉拠点」は内容、場所ともに重複しているように見えるが、分けて設定する必要があるか。	・拠点は上位計画である総合計画で位置付けられており、ゾーンは地区計画（健康医療福祉拠点地区計画）の内容を基に設定しているため、このような表記となっています。
19	向口委員長	将来都市構造について、「くらしと交通の拠点」は良い名称だが、「都市拠点」との名称のバランスや序列が気にかかる。都市拠点の方にも具体的なイメージが湧く名称を検討してはどうか。どちらも「くらしと交通の拠点」とし、補足で序列が分かるようにすることも考えられる。	・ご指摘いただいた内容を踏まえ、拠点名を修正しました。（別紙資料）
20	小田桐委員	「くらしと交通の拠点」という名称は目指す方向性として良いが、現状維持にとどまるのであれば誤解を生む可能性がある。	・豊明駅は市内に三箇所ある鉄道駅の一つであり、日常生活を支える豊明市南部の拠点として、くらしと交通の拠点に位置づけることは妥当であると考えています。また、拠点の形成方針に記載しているとおり、不足している日常的な生活サービス施設については、立地の誘導に取り組んでいくこととします。

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
都市づくり・緑づくりの基本方針について			
21	小田桐委員	緑の配置方針について、皆瀬川周辺などは「緑の拠点」に入らないのか。前後駅に近く、ウォークアブルの観点からも魅力的な場所であり、位置づけを検討してほしい。	<p>・緑の基本計画では規模の大きい公園などを「緑の拠点」として位置づけています。なお、ご指摘いただいた内容については、皆瀬川に限定していないものの、「緑の基本計画編 緑づくりの基本方針 主な施策・事業」に以下の記載をしました。</p> <p>「（居心地の良い都市空間への活用） 多様な緑の力を活かして、駅前広場や道路空間などのまちの拠点や軸となる空間に積極的に緑を活用することで、居心地の良い都市空間を創出していきます。」</p>
22	永田委員	緑づくりの基本方針について、「緑の保全」とあるが、具体的に何をするのか。単に放置するのではなく、外来種の駆除や剪定など、質の管理をしていかないと荒れてしまう。これには多額の費用がかかるが、実現可能な計画にしてほしい。	<p>・ご指摘いただいた内容を踏まえ、「緑の基本計画編 緑づくりの基本方針 主な施策・事業」に以下の記載をしました。</p> <p>「・市民団体との協働により、緑地の保全活動を実施すると共に、都市計画決定後30年以上に亘って未整備の状況が続いていることから、整備手法の見直しも含めて引き続き検討を行います。」</p> <p>「・街路樹が多様な機能を発揮できるよう、維持管理方法や今後のあり方などについて検討します。」</p>
23	向口委員長	緑づくりの基本方針について、緑の質を変えていくには専門的な知識が必要である。ランドスケープの専門家などを交えて検討する必要がある。	<p>・ご意見を参考にしつつ、本計画の策定後、具体的な取組を進めていくこととします。</p>
24	村上委員	緑の配置方針について、豊明市には桶狭間古戦場や沓掛城址、寺社仏閣などの歴史資源がある。緑の配置方針と歴史資源を一体的に取り入れてはどうか。	<p>・歴史・文化資源の活用については、「都市計画マスタープラン編 分野別方針」および、「緑の基本計画編 緑づくりの基本方針 主な施策・事業」に以下の記載をしました。</p> <p>「・本市には、国指定史跡の桶狭間古戦場伝説地や沓掛城址をはじめ、多くの歴史文化資源が点在しています。これら貴重な歴史文化資源は都市の魅力となることから、これらの歴史文化資源の保存及び利活用を促進します。」</p> <p>「・多様な媒体による情報発信などを進めるとともに、市内での交通利便性の向上を図り、定期的にイベントを開催する等、交流・賑わい空間として市内の公園や歴史文化資源の活用を推進します。」</p>
25	向口委員長	緑の配置方針について、歴史資源がどこに何があるか、改めて調査・再発見することも重要である。目立つものだけでなく、地域にある資源を活用する視点を盛り込んでほしい。	同上